

岐阜県・ホスピタリティ都市、下呂温泉

～観光客100万人回復から飛躍～

日本不動産研究所 岐阜支所
不動産鑑定士 西村 隆

岐阜の名湯「下呂温泉」

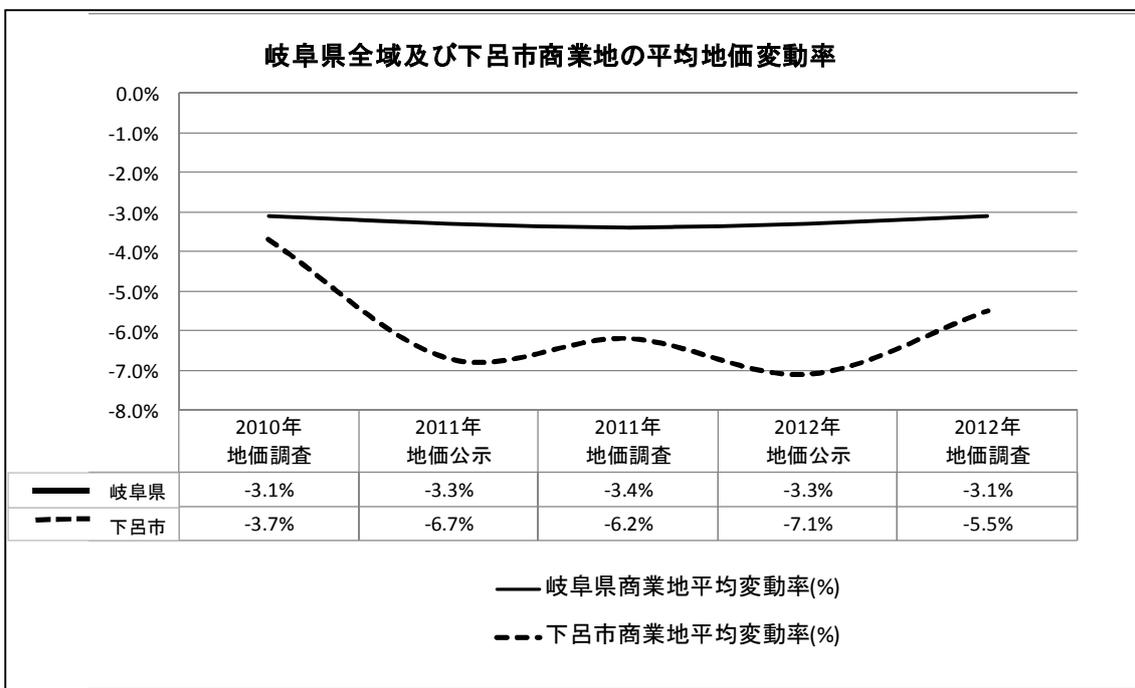
日本三名泉の1つとして約1000年の歴史をもつ下呂温泉は、中部地方の奥座敷として長きにわたって栄える温泉郷である。無色透明のアルカリ性単純温泉で、湯質の滑らかさから美人の湯として名高く、若い女性からも高い人気を得ている。現在温泉郷一带に約56軒の旅館・ホテル等が点在し、温泉街では宿泊客、日帰り客が足湯・手湯などを気軽に楽しみ散策する姿を見ることができる。



「下呂温泉の全景写真」下呂市観光課 提供

下呂温泉の試練

近年、東海環状自動車道東回りルートの開通、東海北陸自動車道の富山までの伸長等により飛騨地方へのアクセスが格段に向上するようになったが、下呂温泉への交通アクセスは国道41号をはじめとする一般道が主なため、これらの恩恵を受けることが少なく、結果的に下呂温泉へのアクセスが、相対的に低下するようになった。このため、平成2(’90)年度には165万人を数えた宿泊者数は、団体旅行から個人的な小規模旅行への宿泊スタイルの変化や景気の低迷等も影響して、平成22(’10)年度には96.5万人とついに39年間続いた100万人を割るにまで至った。これらを反映し、下呂の地価についても下表のとおり、近年大幅な下落が続いている。



下呂温泉の取り組み

このような状況に危機感をもった下呂温泉は、近年官民一体で大規模かつ精力的な観光客誘致を展開し、「宿泊客 130 万人、日帰り客 70 万人誘致」をスローガンに、次のような取り組みを行っている。

【中部北陸の旅「昇龍道」】

中部運輸局、北陸信越運輸局、中部広域観光推進協議会が進める日本中部北陸の旅「昇龍道プロジェクト」は、東海から北陸に至る観光ルートを中華圏で縁起の良いとされる龍の姿に見立て、中華圏をはじめ東南アジア等からの外国人観光客の誘致推進を行うものである。



『昇龍道』のロゴ」国土交通省中部運輸局 提供

【下呂温泉発バスツアー】

下呂を宿泊拠点として県内の観光地を巡るツアーで、県内の他の観光地とのタイアップにより観光客数増加を図る企画である。世界遺産白川郷ライトアップバスツアー、飛騨古川ツアー等があり、近年徐々に利用者が増加している。このほか美濃あかりアートを観覧するツアー等も好評である。

【湯めぐり手形】

有効期限半年間、利用可能回数3回の日帰り入浴専用手形で、下呂温泉の加盟旅館約30軒で利用できる。加盟旅館ほか土産品店やコンビニでも販売しており、リピーターの増加に貢献している。

現在・今後の下呂温泉

官民一体の精力的な取り組みの結果、平成23(’11)年度の宿泊者数は、東日本大震災や原発事故等で国内外の観光客が減少する中、100.3万人と再び100万人を回復した。消費単価の減少等課題も山積しており、今後も予断を許さない状況ではあるが、官民一体となった下呂温泉再生プロジェクトは、「ホスピタリティー都市」をモットーに確実に成果を結んでいる。アクセスについても、郡上八幡から下呂を経て中津川に至る地域高規格道路、濃飛横断自動車道の整備が進む中、平成39(’27)年開業予定のリニア新幹線の岐阜県新駅も中津川周辺に決定し、下呂温泉へのアクセス向上が見込まれることから、今後の下呂温泉の将来性、期待性は大きく膨らんでいる。